

---

# ボクの世界の護り神

戯言遣いの弟子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ボクの世界の護り神

### 【コード】

N0650S

### 【作者名】

戯言遣いの弟子

### 【あらすじ】

ある日、僕は異形に出会い、非日常にも出逢った。

始まった。(前書き)

ちよいちよいち直して再投稿。

始まった。

「う…あひい…」

『なんだよ…こいつは…』目が一つ落ちていて腕がなくて…  
つて、そんなこと考えてる場合じゃないよ…

逃げなきゃヤバイよッ！

「邪魔…なんだけど…」

「うえ…？」

誰かにぶつかつたみたい…だけど、誰だ…？

「邪魔」

「あ、御免…」

『女の人…？』

《うああ…かしゅあ…》

「やっぱり《迷形》か…」 『めい、ぎょう…？』

「退けて」

「あ…」

『行っちゃった…』

「さて…」

「何を、するんだらう…」 「見れば分かるよ」

「え…？」

触ったけど、よく触れるよなあ…

あ、嫌がってる…

「【大丈夫。貴女はもう戻っていいの」

『…？』

「だから、戻ろう？」

《う…ああ…！うああ…！》

「…！溶けて…！」

「っ…！」

「大丈夫ッ？」

「…大丈夫」

「西緒ここのか……西緒ここのおさん？居ますか」

「君は……！」

「…あつ！」

「あの時の事は、秘密にしてくれないかな？」

「あ……うん。わかった」

「ただいま」

「お帰り」

「…何やるの？とりあえず絵でも書くとするか…」

「鈴音？」

「何？」

「ちよい来て〜！」

トントントン

「鈴音、こんな可愛い彼女、居たんだね」

「ふえ？」

「今日は。鈴音君」

「！ここのおさんッ!？」

「ちよつと、用事があったね」

「あ、わかった。行ってきまーす！」

「あいあい」

「…家族って、良いね」

「…そう、だね」

「…あ、知ってるんだ」

「うん……ごめん」

「、なんで謝るの？」

「…あ、付いた」

「『蒼空記』？」

「略称だけだね」

「そうなの？」

「うん。下に小さく『蒼い空の記録屋』って書いてあるでしょ」

「本当だ」

## 始まった。(後書き)

とりあえずキャラ設定

主人公

加灯 鈴音

17歳 男性

高校生。

趣味はパソコンを使った絵を書いて投稿。

某巨大絵板にも何度か貼ったことが有り、何れも好評価。

ヘッドフォン+パーカーを基本としたファッションを好む。

生まれつき色素薄く、声変わりしているが声は高い。(ハスキーボイス位)

姉二人に玩具代わりとして女装させられる事が有る。

たまに女装姿で姉二人と出掛ける事が有る正直そんなに抵抗は無い、慣れた。

因みに女装姿は『あかがね赤金 あおしら青白』。

西緒 ここの

17歳 女性

高校生。

《迷形》に触り、《言霊》を発すと《迷形》を消す事ができるが、

その隙を突く事が難しいので困(前衛)募集中。

家族を全て《迷形》に目の前で奪われ、トラウマが再発した時『蒼空記』のメンバーにお世話になって以来『蒼空記』で働いている。

基本的に活発で動きやすいファッションを好むが、パーカーは好き。モコモコって良いよね!主義。

前になんとか女装姿の鈴音に出会ったことが有るが気付いていない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0650s/>

---

ボクの世界の護り神

2011年9月19日02時16分発行